

新趣向の「第三回台湾李登輝学校研修団」

李登輝先生の訪日発言に拍手の渦

事務局次長 片木 裕一



渴望学習センターでの研修風景

過去二回の台湾李登輝学校研修団は
いずれも募集開始後に日程変更があり
ましたが、第三回（石川公弘団長、伊
藤英樹副団長）は当初の予定どおり十
月二十九日からの開催となりました。

日程は従来より一日長く、野外視察を
充実させたのですが、直前に様々な事
情から取り止めた方が少なからずあ
り、一旦定員に到達したものの最終的
には三十八人の参加となりました。

しかしながらアメリカやチェコから
の参加もあり、いつもながら多彩な顔
ぶれです。（表紙3参照）

【初日・十月二十九日】

飛行機はほぼ定刻に桃園空港に到
着、従来はここから渴望学習センター

に向かうのですが、今回はここで乗り
換え高雄へ飛びます。そう、今回は野
外視察が先なのです。最初の訪問地は
台湾高速鉄道（台湾新幹線）の左営駅。

台湾新幹線の開業は来年十月に延期
になったものの、駅自体は概ね完成し
ています。それにつけても大きいこ
と！ 大きすぎて鉄道の駅というより
は「こりゃ空港か？」との声が……。

次は黄崑虎・李登輝之友会総会長
（通称・台湾の虎さん）のご自宅訪問
です。実は虎さんの家は凄いです、
前に池があり、門から家まで約百メー
トル、九月にはこの庭で千人集めて音
楽祭を開催したほどの広さです。家の
門をくぐると大きな中庭、その裏は果
樹園という「四合院造り」なのですが、

これが八十年前の姿でそのまま現存
し、虎さん自身がお住まいなのです。
虎さん直々による「お屋敷」の説明
の後、中庭で晩餐会です。

虎さん曰く、「皆さん、台北や高雄
ではいろいろ食べておられると思いま
すが、ここでは田舎料理を賞味して
ください」とのこと、確かに今回の研修
団の食事はここが一番美味かった！

【二日目・十月三十日】

この日の最初は、参加者の多くが待
ち望んでいた「烏山頭ダム」です。ダ
ムの資料館に入ると、虎さん登場！
朝は選挙打ち合せ（十二月三日に台湾
全土で統一地方選挙がある）、昼は知
人の結婚式という合間を縫って駆けつ
けてくださったのです。結局ダム湖
「珊瑚潭」の視察船に乗るときのお見
送りまでお付き合いました。
最後に八田與一技師の銅像へ。その
後にお墓があり、献花、黙禱。
午後には奇美博物館です。ここには絵

画、美術品、楽器から武器まで、いろいろなものが展示されています。ここ二時間余り、日本語の堪能な石榮堯さんの解説で鑑賞しました。

夜、台南市内へ戻り永山英樹氏の案内で市が史跡指定する日本時代建築群の見学。消防署、台南州庁舎（現台湾文学館）、台南市警察署、嘉南大圳組合事務所（現嘉南農田水利会）、台南測候所などをめぐり、夕食は海鮮料理で有名な「阿霞飯店」、そして九時過ぎホテルへ。ところで、今回も元気な生徒はおり、恒例の夜の街のお散歩へ。

【三日目・十月三十一日】

この日は李登輝学校の卒業生で嘉義



台湾高速鉄道の左営駅、10月29日



八田與一のお墓と像を参拝、10月30日

市李登輝之友会の会長でもある蔡永泉さんの案内で、日本時代に建てられ最近国に史跡指定された旧嘉義監獄の見学です。

次は、やはり保存が訴えられている、日本時代に建てられた旧嘉義群役所。保存運動の邱如恵さん、範欽章さんに説明いただきました。

夕刻、研修会場兼宿泊先の渴望学習センターに到着し、チェックイン。夕食の後、オリエンテーションです。最初は黄昆輝教頭のご挨拶、続いて荘孟学活動処長からスタッフの紹介があり、これにてこの日は終了。

【四日目・十一月一日】

最初の講義は「台湾の歴史」(台湾大



呉密察先生、11月1日

学歴史系副教授・呉密察先生)です。

いきなり「日本語時代の台湾人は無条件に『日本はいい』といいますが、戦後世代の私達は少し違います。勿論反日ではありませんが、歴史の中で日本の良かったこと、悪かったことを正視します」と切り出し、最後は「今後の台日は日本語のできる台湾人に頼るのではなく、いろいろなチャネルで交流すべきです」と締めくくりました。

昼食の後は「台湾の主体性の追求」(中央研究院近代史研究所兼任研究員・林明德先生)。「台湾の地位はサンフランシスコ条約に拠るが、一九四五年から五一年の間に修復できない事態が発生してしまっ」と論じ、「台湾は台



林明德先生、11月1日

湾であり、ROCではない、『一つの中国と一つの台湾』があるべき姿」と結びました。

ここでティーブレイク。これがお茶だけでないのは恒例。しかし、食事も「日本人が来る」ということで食堂の調理人もハッスル、量も種類も多い！毎度残るものだから「口に合わないのかな」と心配されていたとか。誰か教えてあげて、「多すぎると」。

次は「李登輝先生と台湾の民主化」（国史館館長・張炎憲先生）。民主化の過程を戦後日米で発生した独立運動や李登輝総統の誕生などを軸に説明いただきました。

さて、夕食の後は台湾映画の鑑賞です。予定では、李登輝先生が推奨される「跳舞時代」と「無米楽」のダイジェストだったのですが、「跳舞時代」の監督の一人（監督は二人いる）の簡偉斯さんが突如来場、お話を聞けることになったので、「跳舞時代」を全編鑑賞することになりました。

【五日目・十一月二日】

この日の最初は「台湾と日本の安全保障」（台湾独立建国聯盟主席・黄昭堂先生）。「昨年の立法委員選挙の予想で大恥をかいたので、もう選挙予想はしない」と参加者を笑わせますが、本題に入ると台湾の政治体制の問題やバシー海峡の重要性、潜水艦の脅威などが盛り沢山！質問は後も絶たないので、時間が足りない！しかし朗報「昼から会議があるが、夕方また来る」と、再登場を約束いただきました。

午後は「台湾の制憲運動」（台湾大学法律学院名誉教授・李鴻禧先生）。

この講義は過去二回、許慶雄先生が受け持っており、今回も個人的に楽しみにしていたのですが……。「中華民国が台湾を領有する法的根拠はない」としながらも、台湾の真の独立には沢山のハードルがあると説明されました。

ティーブレイクの後、最後の講義は「台湾の文化と文学」（小説家・鄭清文先生）です。今回も「中国と台湾は違

う、だいたい中国の物語は安直で奥深さが無い」と辛口の解説ですが、質疑応答では「台湾では『物書き』だけで食っていける人はほとんどいない」との嘆きも……。鄭先生自身も七年前までは銀行員だったそうです。

夕食後、一年ぶりに黄昭堂先生と東関係協会会長の羅福全先生のツーショットです。前回は黄昭堂先生に押され気味だった羅先生でしたが、今回はエンジン全開です。あつと言う間に終了時間となりましたが、黄昭堂先生には会場をカラオケルーム移して延長戦までお付き合いいただきました。

ところで、センターは全館禁煙なので、愛煙家は恒例の玄関脇の喫煙所、通称「渴望煙草村」に集まるのですが、黄昭堂先生「そんなのは差別だ！」と一言、カラオケルームの一角は喫煙コーナーになったのである。感謝。

【六日目・十一月三日】

最終日、待ちに待った李登輝先生が



張炎憲先生、11月2日



黃昭堂先生(補習講義?)、11月2日



李鴻禧先生、11月2日



鄭清文先生、11月2日

登壇。今回は我々に加え中央大学のゼミ生が参加した。この貴重な経験を今後の糧にしてもらいたいところだ。また、台湾のマスコミは当然ながら、日本の台北駐在記者も数人参加した。中にはフルに講演を聞いていった記者さんもいたように……。

今回も「則天去私」¹「禪の精神」から「私は私ではない私」まで盛りだくさん、日本の対中国姿勢についても「理解し尊重する、なんて言っちゃいけない。彼らは武力を使っても台湾を併呑しようとしているんだ。こんな強盗の論理だよ。それをなんで理解し尊重するのか!」と熱弁(詳細は次号掲載予定)。また、「来年四月、必ず

日本へ行きますよ、奥の細道を桜を見ながら歩くんだ」との発言に会場は割れんばかりの拍手の渦となった。

記念撮影の後、修業式。今回は時間の節約もあり渴望学習センターで行った。李登輝先生は腰が思わしくないいで、台湾のスタッフを通じて「横に座っていたただけで結構です」とお伝えしたのですが、回答は「私から全員渡します」とのことでした。しかしながら、三十八人全員に修業証を渡し握手までされたので、やはりいささかお疲れになったようです。

李登輝先生は講義の中で「突然日本の歌が歌いたくなってね、女房と歌つたよ、『夕焼小焼け』なんかをね」。

この人が台湾の前總統なのだ! 日本政治家で童謡を、それも奥さんと一緒に歌ってしまう人などいるだろう。石川団長の最後の挨拶は「今回いろいろ教わりましたが、私が最も教わったのは、まずは夫婦円満から、ということです。帰国したら真っ先に実行します」でした。

できそうでなかなかできないこと、それを一歩ずつ、着実に実行することこそ一番の近道であることを教えられた研修となりました。

最後に、李登輝先生をはじめ、群策会や李登輝学校卒業生のボランティアの方々には大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。